

令和元年 8月 1日

報 告 書

大田原市広報広聴委員会委員長 櫻井 潤一郎 様

大田原市議会 第4班班長 高瀬 重嗣

大田原市議会報告会実施要綱第9条第1項の規定により、下記のとおり報告いたします。

記

1. 日 時 令和元年 7月10日(水) 午後 2時00分～ 3時30分
2. 会 場 大田原市役所7階 議会フロア
3. 担当議員と役割

【第1部担当議員】	【第2部担当議員】
菊池 久光(司会進行)	高瀬 重嗣(班長)
黒澤 昭治(見学案内)	高瀬 重嗣(司会進行)
印南 典子(")	弓座 秀之(意見交換対応)
鈴木 央(")	星 雅人(")
中川 雅之(")	前野 良三(")
	小野寺尚武(")
	小林 正勝(")
4. 参加者 別紙受付表のとおり
 - ・市内 20名(男性20名、女性0名)
 - ・市外 2名(男性 1名、女性1名)

5. 意見交換会の内容

- 市のイベントや観光に関するすべてに於いて、情報発信が不足している。
現状は単なる物産協会のような。もっと経済効果が上がるような、情報発信インフラ整備が必要。
また、市の広告宣伝費（広報）の予算もあまりにも少ない。
一例として、「与一まつりってどんなお祭りですか？」と聞かれても、「こんな感じですよ！」と見せられる動画すら用意されていない。
塩原では色々なイベントの動画が用意されている。本市も関係者等に協力してもらい、観光やイベントのPR動画づくりなどもっと積極的に取り組み。情報発信の土壌づくりを始めなければならない。
- 近隣市町で、自治体が制作した「グルメマップ」が無いのは大田原市だけ、旅行者向けのグルメマップが必要
- 観光、イベント発信にもっとQRコードを使うべき。
例えば、市内循環バスの昇降ボタンの所に市内の見どころの案内やグルメ情報が見られるQRコードを付けるとか、市のHPから飛べるようにQRコードを付けるとか、ツールは沢山あると思う。

イベント&祭りの原状と今後の在り方について

- 佐久山と黒羽の花火大会を一つにして、「大田原花火大会」として盛大に開催した方がいいのではないか。
- 佐久山花火大会では市内全域で一戸100円の寄付を募っているが、何故黒羽は行わないのか？市民全体の一体感が生まれえないのではないか？
- 黒羽花火大会としては過去に須賀川や両郷地区に、シャトルバスを出すなどしたが、利用者が誰もいなかった経緯がある。
- 「よさこいまつり」はこのまま終わってしまうのか？
- 今後は「グルメフェス」に絞って本市の魅力発信に特化していきたい。（35店舗出店で売上総額1,500万円の実績）
- よさこい団体を各地から呼ぶとバス代だけでもかなりの費用がかかる
- 大田原の「天狗祭り」「黒羽秋祭り」那須塩原の「まき狩りまつり」が同日なので日程調整は出来ないのか。
- 黒羽秋祭りと天狗祭りのシャトルバスを出しますか？
- 観光協会はHPにEブック（アプリ）を入れていて、例えば八雲祭だったら、問い合わせ先から始まりその他の詳しい情報も直ぐにわかるようにしているが、そういう事をもっと市としても発信してほしい。
- 高館まつりでは、地域の活性化を目的として地域住民が手作りで地域住民が楽しむ為の祭りを行っている。地元中学生も朝の掃除を手伝ってくれていて、子どもから高齢者まで地域一丸となって開催している。また、文化芸術研究所では、住民の作品を展示する等活性化の拠点となっている。
- 祭りやイベントによっては転換期となっているものもある。特に「与一まつり」は、メインの流し踊りよりも武者行列に注目が集まり、メディアに取り上げられるのも武

者行列。この先を見据えてまつりのあり方を検討する必要があるのではないか。

- イベントや祭りの告知や情報発信には「大田原市」だけでなく、必ず「栃木県」と入れないと、関西方面や九州、北海道等、圏域の違う来訪者にはネームバリューがないので、どこだかわからない。
- 空き家等を保存し、古い街並みを保存する事も必要ではないか（特に旧黒羽地区）
- 板塀保存に補助金を出しては？
- 地域の事を真剣に考えている市民の所に、議員がまめに意見を訊きに来て欲しい。

移住定住促進、空き家活用

- 市内空家数約 900 軒に対して、空き家バンクの登録件数があまりにも少ない。移住定住を促進したいなら、もっと空き家バンクに登録件数を増やす必要がある。移住定住を考える人が一番先に考えるのは住む家の事であるから。その為には、宅建協会と何が支障になっているのか協議し対策を講じる必要がある。

事業承継者不足について

- 地元の残したいお店や企業が激減していく中、どうしたら後継者を作り残していけるのか切実な問題なので市も考え対策をして欲しい。

大田原市内イベント等をまとめ配布した用紙を見て

- 各地のお神楽や天王祭、各地の花市などこれだけ多くのイベントがあるとはわからなかったが、周知はどうしているのか。→市の広報や SNS 等で行っている。
- 観光協会でもチラシやカレンダー等で周知している。大田原では 4 大祭りを PR しているということで、春の桜まつり・屋台まつり、夏はくろばね紫陽花まつり、与一まつり、秋の天狗大国祭りに力を入れている。
- 参加者の数がわかるとありがたい。
- 黒羽秋まつりと天狗王国祭りは、これから日程調整をして重ならないようにしていく。
- イベントが重ならないように調整していく必要がある。
- イベントすべてを網羅したカレンダーを作りたいと観光協会で奮闘中だがそもそも日にちが 1 月はじまりのカレンダー作成時には決まっていない。日にち確定はその主催団体の総会待ちになってしまうが何とか工夫していきたい。
- 与一まつりの流し踊り、確かに県北最大だがじり貧傾向。何か改革が必要では。広く市民の意見を聴取してほしい。
- 新しい流し踊り（曲）を作るべきではないか。歴史を踏まえて現代風アレンジするのはどうか。
- 与一まつりの開催については昨今の暑さを考えて時期をずらせばもっと市民も参加しやすくなるのでは。
- くろばね紫陽花まつりについて、城址公園そのものを観光地化できる組織は行政が入らないと難しい。あじさいを育て管理する人、まつりの運営を担当する人、それぞれの担当は努力をしているが、総合的なプロデューサーがいらないと思う。
- 大田原マラソンについては、ボランティアが苦情聞き係にもなってしまう。特に交通

規制の際の迂回路の設定を工夫してほしい。

- 他地区から来た人も参加できるようなものがある。
- 郡上踊りは素晴らしい。結婚して市外に転居した娘が帰ってきて踊りたくなるようなものがある。
- 両郷大宮温泉神社のお神樂が抜けている。
- 費用面、市からの補助金が重要。議会にまつりの補助金の確保をお願いしたい。
- 大田原花市は来年1月11日。例年とは場所を変えて行う。商工会議所で、続けられるよう配慮してほしい。

その他

- ・ 防災訓練について、中央多目的公園で8月25日に開催するが、屋根が何にもない。避難所としては屋根が必要ではないか。もし屋根があれば、毎週イベントもできる。ぜひ議会に頑張ってほしい。
- 商工会館を作る予定である。CLTを使う予定。国交省の補助を使い設計、林野庁の補助を使い建設。県の補助もお願いするが、最後には市のほうの補助が一番のポイント。議会でも応援方をお願いしたい。
- 市役所も出来上がったことだし、次は商工会館の建設に特段のご配慮をいただきたい。
- 名刀展を道の駅で開催した時は四国からやってきた方もいた。ネットで情報を得たとのこと。ぜひネットでの情報発信に取り組んでほしい。
- 商業地域と住居地域の線引きが私道の上にあたりする。大田原は飲食業も一大産業。路地に店があるのは県内でも貴重。市と警察で協議してもらって、店が減らないように店が増えるように線引きを何とかしてほしい。
- 大田原に出向してくると最初はみんながっかりしているが、親不孝通りに連れていくとみんな大田原を好きになってくれる。その意味でも貴重な。
- それぞれの地区それぞれの地域の市民の事情をくみ取る努力をしてほしい。
- 街中から西那須野駅へ遅い時間に行けるバスがあればいい。最近タクシーも代行も少ない。大田原での滞在時間を長くする方法を考えてほしい。
- 大田原ブランド11品目のお披露目の場がない。議会にもイベント等開催について頑張ってほしい。

6. 議会報告会の所感等

- ・ 与一まつりについて、県北最大の流し踊りである、という自負とともに改革の必要性を訴える意見が目立った。流し踊りの音楽、まつりの開催時期を含め、前向きな見直しが必要である。
- ・ イベント開催時期の調整、周知方法にも様々な課題が提示された。イベントの種類

によっては、市内のみならず他地域との調整の必要や、上部統括団体の日程指定があるとのこと。しかしながら解決方法を模索しようとする強い意志も感じられた。QRコードを積極的に活用するなど、常に新しい技術を取り入れる姿勢を持ちたい。

- ・祭りは、細かいイベントの集合体でとどまらず、全体としてどのような祭りを目指すか、という総合プロデューサー的視点も必要である。

- ・大田原の親不孝通りを健全に活性化させることも大田原全体の活性化につながる。利用後の交通手段がなければ利用する人も減るだろう。タクシーや代行の運行車数が減る中、何らかの対処が必要だろう。

- ・中央多目的公園の日よけ場所の設置については、避難所として、またイベント場所として確かに必要性があると考えられる。